

調査計画書[1班]

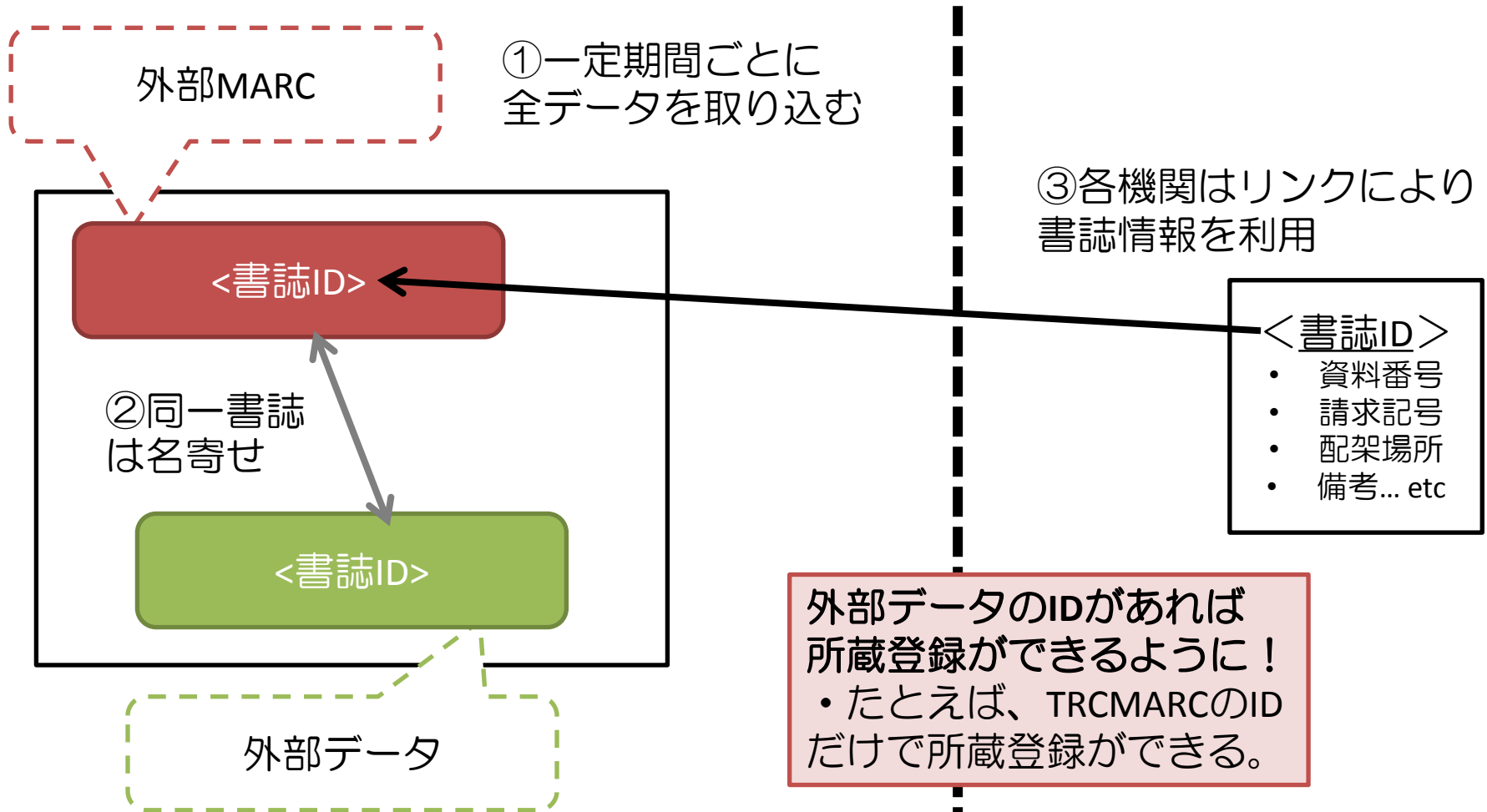
国立国会図書館 安藤大輝
神戸大学附属図書館 末田真樹子
九州大学附属図書館 萩原泰子
秋田大学附属図書館 原智子

テーマ

- テーマ「外部データの活用を含めた所蔵登録の簡素化」
 - 現在は、所蔵登録はすでにある書誌に対して所蔵をつけるのみ
 - 現行の所蔵登録には、簡素化の余地は少ないのでは？
 - 実際には書誌がないときに書誌を作るのが大変
 - 外部データを活用して、現行の所蔵登録を簡素化するモデルが実現できないか？

提案

外部データ自体に所蔵をつけられないだろうか



課題とWSのスコープ(1/2)

主な調査対象

- 多種の外部データが混在できるか
 - システム処理で対応できる部分
 - 書誌の質が低下しても許容できる部分
 - どこか人が手を加えなければいけない部分

付随的な調査・検討

書誌と所蔵を分けるモデルの検討
などを並行して行う

課題とWSのスコープ(2/2)

主な調査対象

- 多種の外部データが混在できるか
 - システム処理で対応できる部分
 - 書誌の質が低下しても許容できる部分
 - どこか人が手を加えなければいけない部分

NCにとって一番身近である外部MARCを調べ、
新モデルにおいて外部データを用いる際の

- 外部データに必要とされる要件（データ側）
- 運用ルールの変更内容（NC側）

を明らかにすることが最終目標

今後の調査計画

#	# すること	8月			9月			10月			11月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
1	第二回集合研修	■											
2	調査計画書の確定		■										
3	外部データ比較調査			■	■	■	■						
4	・データの抽出等			■									
5	・不一致項目の目視調査				■	■							
6	・結果の分析						■						
7	外部データに必要な要件の検討							■	■	■	■	■	
8	運用で変更となる点の整理							■	■	■	■	■	
9	現状確認や全体のモデル構想等			■	■	■	■	■	■	■	■	■	
10	最終発表												■

外部データ比較調査(～9月)

目的と対象

目的

- 外部MARCとNC書誌データの差異について、以下を明らかにする
 - ① システム処理で対応できる部分
 - ② 書誌の質が低下しても許容できる部分
 - ③ どこか人が手を加えなければいけない部分

対象 流用入力件数の多い各MARC(TRC/JP/US/UK/DN)

- 外部MARCから流用登録されたレコードについて
 - ① ロード前の外部MARC
 - ② CATPにロードした参照レコード
 - ③ 流用入力して作られたNC書誌データを比較して、どの段階で相違が生じているか、なぜその項目を編集したかを確認し、差異を分類する。

外部データ比較調査(～9月)

比較調査項目

- TR
- TRR
- PLC
- PBLC
- PBLCDT
- PHYNM
- PHYSZ
- NT (1項目目のみ)
- AL (全項目)

各MARCのマッピングも踏まえ、最終決定する。
データ抽出時に変換ルールも並行して確認する。

外部データ比較調査(～9月)

不一致項目の分類(1/2)

- 調査対象

- TR, TRR, ED, PUB, PHYSの不一致レコード
- 件数は不一致数によって適切に判断する。

- ① 目視による分類 (NC書誌⇔参照レコード)

不一致のレコードを目視によって、パターンを分類する。機械処理可(システム処理で対応できるもの)/無視できるもの/要対応人手での処理が必要、の観点からパターン化(次頁)

- ② サンプルチェック (参照レコード⇔外部MARC)

要対応の差異パターンのデータについて、各パターン新しいデータから1割程度をサンプルとし、ロード前の外部MARCを確認する。

外部データ比較調査(～9月)

不一致項目の分類 (2/2)

不一致項目の種類	対応の要不要	不一致項目の種類	対応の要不要
・ 書名の相違	要対応	・ 副書名の有無	無視できる
・ 書名のヨミの相違	要対応	・ ルビの有無	機械処理可
・ 責任表示の相違	要対応	・ PTBLによる相違	無視できる
・ 責任表示の有無	無視できる	・ VOL積みによる相違	機械処理可
・ 責任表示の省略形の相違 (イニシャルなど)	無視できる	・ スペースの有無	機械処理可
・ 責任表示の役割表示の相違および有無	無視できる	・ 記号の相違	機械処理可
・ 書名の順番の相違	無視できる	・ 大文字小文字などの字体の相違	無視できる
・ 並列書名の相違	要対応	・ 別資料であるもの	無視できる
・ 並列書名の有無	無視できる	・ 翻字	機械処理可
・ 副書名の相違	要対応	・ その他	?

外部データに必要な要件の検討 運用で変更となる点の整理

外部データ比較調査の結果を受けて、

- 外部データに必要な要件
- 運用で変更となる点

を整理/検討/分析する。(10月～)

現状確認や全体のモデル構想等

外部データ比較調査と並行してモデルを実現するために必要な事項を整理し、優先度を決めて検討していく。

特に書誌と所蔵を具体的にどのようなように分けて管理するか、メリットデメリットも含めて整理する。(9月～11月)